（試験研究課題年次別解説集様式第 3-2 号：継続課題用）

静岡特産海藻増養殖研究

（予算区分　県費　研究期間 2022～2025 年度）

担当：水産・海洋技術研究所　深層水科　今井基文
伊豆分場　角田充弘

【研究の背景とねらい】

・磯焼けで消失した榛南海域のサガラメ藻場の回復を目指し、沿岸漁場整備実証事業においてサガラメ種苗の大規模な移植を実施しています。
・移植種苗を速やかに岩盤に活着させる技術を開発すれば、種苗の定着率を高めることができ、より効率的に種苗移植が実施できます。
・サガラメの生長、特に仮根を伸長促進させる技術開発を植物ホルモンを活用して行います。
・開発した技術は榛南地域のサガラメや伊豆半島のアラメ、アントクメ、テングサなど特産海藻の増殖に役立ちます。

【これまでに得られた成果】

（2023 年度までの成果）

・植物ホルモンのひとつであるジベレリンを添加した海水でサガラメを培養する室内実験を実施したところ、一定の濃度で葉体の生長に促進効果があることがうかがわれました。
・植物ホルモンのひとつであるインドール 3 酢酸を添加した海水に 30 分浸漬し、仮根の発芽、発育を確認したところ、特定の濃度で発育促進の効果があることがわかりました。

（2024 年度の成果）

・合成オーキシン、合成サイトカイニンにおいても同様の処理を行い、仮根の再生、発育を確認したところ、特定の濃度で発育促進の効果があることがわかりました。
・天然採取した母藻を使用して、アントクメの種苗生産の種苗生産体制を確立しました。一方で天然母藻を試験移植し、周辺の基盤へ幼体が着生した状況を確認しました。

図1　サガラメ種苗の培養実験

図 2　サガラメ種苗にオーキシン処理をして発育した仮根

【期待される成果】

・開発した技術は榛南地域のサガラメや伊豆半島のアラメ、アントクメ、テングサなど特産海藻の増殖に役立てます。

【今後の計画】

・サガラメ種苗のオーキシン処理の効果を検証します。
・伊豆海域での効果的な海藻移植方法への活用を検討します。

（作成　2025 年 4 月）